

地域経済分析システム（RESAS：リーサス）とは

RESAS（「Regional Economy (and) Society Analyzing System」の略）は、地域経済に関する様々な官民ビッグデータ（産業、人口、観光、農業等）をわかりやすく「見える化（可視化）」し、地方自治体による地方創生をはじめとする様々な取り組みを情報・データ面から支援するため、平成27年4月より内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部）及び経済産業省が提供しているシステムです。

【本システムの利用】

本システムは、国及び地方自治体のみが利用できる「限定メニュー」と、一般公開される「一般メニュー」からなります。※地方公共団体は、ID申請・付与後、限定メニューの利用可。

【一般メニューWebサイト】

URL：<https://resas.go.jp/>

※WEBブラウザは「Google Chrome」を利用。

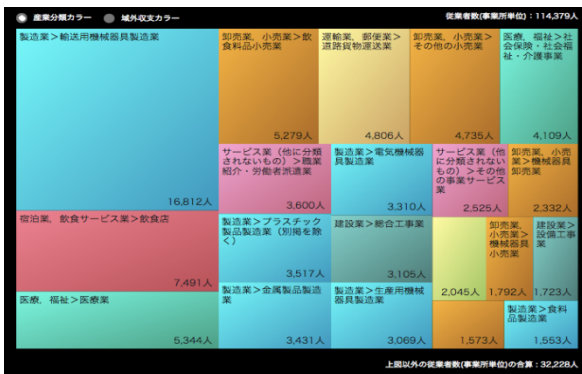
平成29年3月末までに、インターネット・エクスプローラ（IE）にも対応。

地域経済分析システムを用いて把握できること（一例）



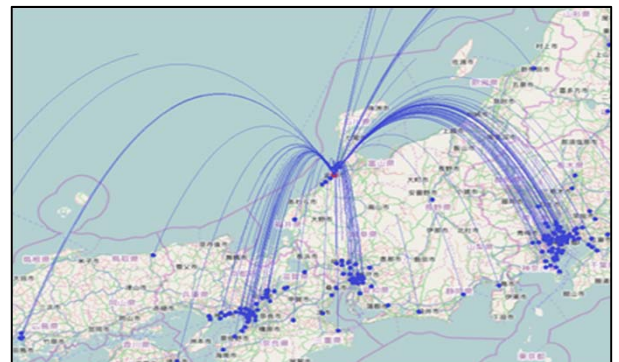
- ①域外から「稼いでくる」産業
- ②行政区域を超えた企業間取引関係
- ③地域を支える「地域中核企業」候補
- ④観光客が多く訪れている場所
- ⑤観光客の出発地
- ⑥現在及び将来の人口構成
- ⑦人口の転入・転出先
- ⑧各種指標の地方公共団体間での比較

産業マップ



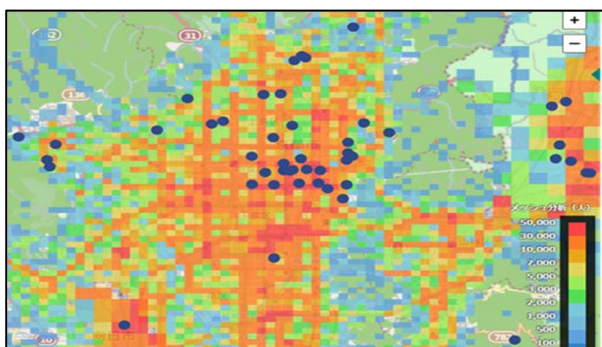
各地域の経済を支える主要産業が把握可能
※地方自治体職員限定メニュー含む

人口マップ



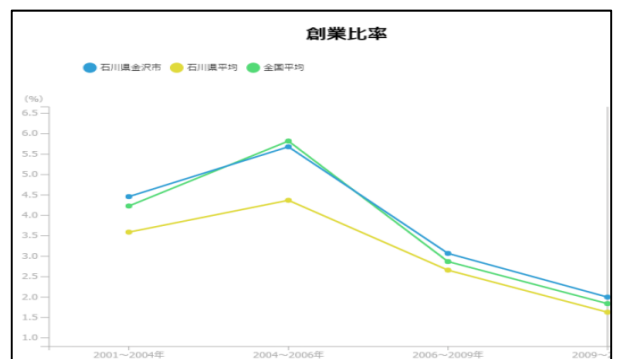
人口の転入・転出状況を、性別・年齢層別に把握可能

観光マップ



市町村内のどこに多く人が来ているか把握可能

自治体比較マップ



各種指標を他の地方自治体と比較し、自らの位置付けが把握可能